2017年アッセンブリー
18番テーブル　総評

《テーブルメンバー》

山本（早稲田２）、鈴木（明治２）、花形（明学３）、大沼（フェリス２）

本間（立教３）、遠藤（慶應２）、長井（高経２）　順不同

《議論の流れ》

文責：東野（立教）

OP 決めでは 3 人が花形、山本、鈴木が立候補した。 3 人とも「脳死患者に対して臓器移植を強制する」というオピニオンシートであり、投票の結果、花形と鈴木が同票であった。山本のクエスチョンを中心に、花形の「価値観に基づいているため、オブジェクションを出しにくいコンパリアイデア」と「ナンバーに基づいているため、立ちにくいコンパリアイデア」という 2 つの軸ができあがり、最終的には花形のオピニオンシートが選ばれた。

ASQ では Harm エリアにて、山本が「オピニオンプレゼンターの設定した sit のままだと s/m の term がとても短いので、s/m の situation を<do not get o/t>から<will die>に変えよう」という提案が出る。結果、花形が sit のラベルを変更した。この提案に対しては、主に 2 点が話し合われた。

①オピニオンプレゼンターの設定した situation は possibility なのか、fact なのか？

→まず、花形を中心としたテーブルメンバーから山本の Q に対する理解に時間を要した。結果、possibility の意味は「日本臓器移植ネットワークに登録しているか否か」であることが判明する。

②situation の v/point は TG なのか、fact なのか？

→「v/point は fact であり、TG ではない」というオピニオンプレゼンターに対し、「v/point は fact、TG どちらもである」という山本の主張がぶつかった。結果、山本の「TG が思っていなければそれは s/m とは言えない」という意見により、TG も含まれることがテーブルで確認された。

議論を通して、花形が徹底して Get AD に焦点を当て、議論を進めることを重視するのに対し、山本はダウトを持った介入で質を深めていた。ただし、この議論は非常に速いペースのもとで行われ、多くの遮り合い、介入の取り合いが見られたことも記しておく。

次に、遠藤により「A/L/1 により AD の証明は果たしているが、より多くの ADTG が救えるため、B/D 以外からも臓器移植を強制させよう」というマンデート追加の提案が話し合われる。結果、オピニオンプレゼンターの「ナンバーではなく effectiveness に焦点を当てている」という主張により追加されることはなかった。

PLAN サイドでは、２つのロジックが検証された。

①大沼の「政策施行後に ADTG である患者が、罪の意識を感じてしまうため AD がとれない」というアーギュ

→山本のクエスチョンから「今回の TG には罪悪感を持ち臓器移植を行わない人、罪悪感を持たず臓器移植を行う人、罪悪感を持ちながらも臓器移植を行う人という３種類の TG がいる」ことが確認された。次に、オピニオンプレゼンターのクエスチョンにより、大沼の ADTG の意味するところはオピニオンプレゼンターの ADTG と別のものであることが確認される。大沼が「臓器移植に賛成している人から臓器移植を受けたい患者」であるのに対し、オピニオンプレゼンターは考慮をしていなかった。some cut であることが確認されたのち、鈴木がプロシーディングを引くことにより、SQ の ADTG と APA の ADTG の違いは m/s/b for TG に繋がることであることが確認され、大沼が取り下げる形で検証は終了した。

②山本の「APA では医者が臓器移植を行わない」というアーギュ

→「脳死者も患者の一人であり、APA には right to choose が侵されるため、医者は ADTG よりも脳死患者を優先する」という主張に対し、花形の全ての医者に共通しているかどうかなどのクエスチョンがなされたが、検証途中で終了した。

《順位とコメント》

文責：藤原（芝工）

1位　山本（早稲田2）

積極的な介入及びダウトを評価しこの順位とした。基本的なプレゼン能力は高く、また鋭い発言も見られた。一方で、違いのわかりにくい発言や細かい発言（ミクロなダウト的なもの）も多かった。それにより発言が正確に伝わらないことや、その示したい違いが伝わらないことがしばしばあり、議論の停滞を生む場面も見られた。今後は細かい違いを正確に伝えられるようなプレゼンスキルを磨いていってほしい。

2位　花形（明学3）

オピニオンプレゼンターとして議論の土台を作ったこと、他者の発言に対するトリートを評価しこの順位とした。1位との差は非常に僅差であった。敗因としてはオピニオンプレゼンターとしてADを取ることができなかったことが最も大きい。今回全ての発言に対し非常に丁寧なトリートを心がけていて良かったが、それによる議論の進行の遅れからADが取れないようでは本末転倒である。オピメとして最低でもADは取れるように時間を意識し、時には強引にでも議論を進めることが大事であると思う。今後は今まで教わったことを後輩に伝え、よきエデュケーターになってほしい。厳しいことを書いたけど、最後にあすかの頑張っている姿をjudgeできて良かったです。残りのディスライフ楽しんでね！

3位　大沼（フェリス2）

発言回数は非常に少なかったが、大沼の出した反論がきちんと検証されテーブルに残ったのでこの順位となった。今回、議論らしい議論のなかったテーブルで反論を出したことは非常に良かった。しかし、クエスチョンやカンファメなどがほぼなかったのでもっと発言できていたら良かった。今後は介入量を増やせるようプレパに励んでほしい。マスターとして1年近く見てきたけど、普段喋らないゆりが反論してて感動しました笑。今後も頑張ってね！

４位　鈴木（明治２）

通らなかったもののサジェスチョンやT/Pを引いたのを評価してこの順位とした。発言数自体は３位よりも多いものの議論に有効なものが少なかったため、僅差で４位となった。カンファメなども多かったが、どれもすでに浸透しているものであったため評価できなかった。しかし、２年生でありながら上記の行為を行えたのは非常に良かったと思う。今後はサジェスチョンが通るようにそのサジェスチョンへと至るステップを丁寧に踏むとともに、テーブルに浸透していない点をカンファメできるようになると良いと思う。

５位　遠藤（慶應２）

通りはしなかったもののスパイクプランの提示などを評価してこの順位とした。オピメに対して自分の思った疑問をしっかり発言していたのは良かった。また、周りに流されずしっかりと自分の言葉で言いたいことを言っていたのは非常に良かった。今後はディスの理解を一層深め、自分の発言をより有効なものにしてもらいたい。

６位　長井（高経２）

１回ではあるがクエスチョンしたことを評価しこの順位とした。どの発言においてもそうだが、するとしないでは雲泥の差があり、しないということはわからないと同義であると取られてしまう。だから勇気を持ってしたこの発言は非常に良かった。今後はディスへの理解を一層深め、また来年の春セミ・アッセンに臨んでほしい。

７位　本間（立教３）

発言がなかったためこの順位とした。今後は残り少ないディスカッションライフを満喫するとともに、後輩へのエデュケに専念してほしい。

《Judge から一言》

みなさんアッセンお疲れ様でした。学校もあり、あまりプレパなどに時間を割くことはできなかったかもしれないけど、みんな本気でディスカッションしているのが judge をしてて伝わりました。これからもしくはすでに新入部員がいるかもしれないけど、ディスカッションの楽しさを伝えてぜひディスを盛り上げてってください！２年生はあともう一年あるのでこれから目標のランクへ突っ走ってください！３年生は自大学や他大学の後輩の面倒を見てあげてください。自分の教わったスキルを還元して良きプレイヤーを育てるとともに、ディス界を盛り上げていってください！

（フジコ）

アッセンお疲れ様でした！今年度のアッセンはどんな気持ちで終われましたか？きっと、どんな順位でも（甲の人でも？）結果に１００%満足できる人っていないんじゃないでしょうか。君たちは、春セミ、アッセン期を通して感じたその不満足な部分をこの一年間で後輩に伝えたり、解消したりしなくちゃいけません。これからまだまだやることたくさんあります！だから、また一歩ずつ、少しずつでもいいから進んでいきましょう。最後に素敵なテーブルが見られてよかったです。おつかれさま！

（写真欲しかったら言ってください☺）

絵名より